

加入者のための ワンポイント解説!

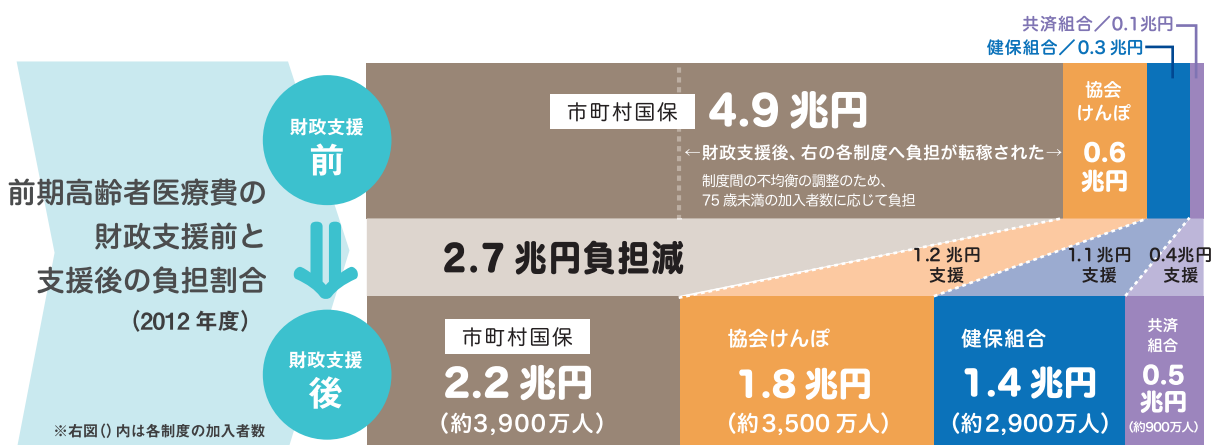
加入者の皆様にわが国の医療制度の課題や健保組合・健保連(健康保険組合連合会)の主張についてわかりやすく解説するものです。

65歳～74歳の前期高齢者の医療費は、各医療保険者に加入している前期高齢者数にバラツキがあるため、その負担の不均衡が調整されています。この調整の仕組みが、健保組合財政にとって大きな問題となっています。



前期高齢者は約 1,400 万人でわが国の人口の 12.9%です。
その医療費の規模は、2012 年度で約 5.9 兆円となっています。

会社を退職すると、一般的に市町村国保に加入するため、市町村国保の高齢者が増え、その結果、国保の医療費が増大し、財政を大きく圧迫しています。そのため、前期高齢者の割合が全国平均値より低い健保組合や協会けんぽなどの医療保険者は、全国平均より高い市町村国保に財政支援する調整の仕組みが導入されています。



現在の前期高齢者の財政負担を調整する仕組みでは、健保組合に過重な負担となっており、現役世代が減少していく中で、支えきれなくなっています。高齢者の医療費を国民全体で支えるとの観点から、保険料と税のバランスを見直す必要があります。健保組合・健保連は、前期高齢者の医療費にトータルで5割の公費(税金)を投入・拡充することを強く求めています。